

夢のみずうみ村を見学して

2月22日、NPO法人VIVIDの新規事業立ち上げプロジェクトで千葉のデイサービス、「夢のみずうみ村」の見学に行った。

私達を案内してくれたのは、「水先案内人」と称する利用者の1人。数年前に脊椎狭窄症で手足に麻痺が出て、現在も足を少し引きずっている。2階建ての倉庫を改装したとこのことで、利用者はここ来ると、まず、豊富なメニューの中から、今日1日のスケジュールを自分で選択して決める。水中歩行訓練、木工、料理、パン、カラオケ、パソコン、園芸、夕方にはカジノも開かれる。建物内はスロープや階段があり、歩き回るだけで結構運動になる。通路のあちこちに、健康コーナーがあり、難しい漢字の札をめくると読み仮名がかかれていますので、立ち上がりかんだり屈伸運動をすることになる。色々なコーナーをクリアすると地域通貨「ユーメ」がもらえる。水先案内人は私達を案内することでユーメを受け取り、麻雀で儲けるのだと言っていた。村の中には銀



業務用大型オープンを備えたパン教室は大人気。焼きあがったパンは持ち帰る。



通路のスロープの寿司ネタの札はかがんで裏返すと読み方が分かる。

行もあり、たくさん貯まったユーメは貯金することもできる。マイナス金利ではなく、預金時に金利を先にもらうことができるそうだ。

お昼はバイキング。各自のお茶碗、お箸、湯飲みは1人分ずつ密封容器に入っている。自分の食器をお膳に載せ、その日の献立を、自分が食べたいと思う量を自分で盛り付けて、自分の気に入った席で、気の合う仲間と食べている。山盛りのお皿をワゴンに載せて席に運んでいる人もいる。おいしそう！食べ終わると洗い場まで下膳し、洗い終わった食器は自分で自分の容器にしまう。食器の写真が貼ってあるので間違えない。

90人ほどの利用者を25名ほどのスタッフが支えている。広い村内で1人ひとりの利用者が生き生きと暮らし、訓練としてのリハビリではなく、生活を楽しむためのリハビリを自発的に行っている。元気な人も一緒に楽しみたくなるデイサービス、私たちの近くにも作りたい。

ひと・まち社 事務局長 松浦 恵理子

市民シンクタンクひと・まち社 第15回総会を開催します

2014年1月に認定NPOの仮認定を受け、ひと・まち社への寄付は税額控除の対象とすることができるようになりました。2015年は大勢の市民に向けて寄付の協力を呼びかけ、3年の間に本申請をすることを計画してきました。皆様のご協力のおかげで、本申請に向けての絶対基準「2年間に3,000円以上の寄附者が200人以上あること」を満たすことができましたので、本申請に向けてすすめていきます。皆様からの寄付は、調査活動のために使っていきたいと思えます。

2015年度からの介護保険制度改正を受け、新総合事業に関する3年間の継続調査を行っています。2015年は

スタートにあたって「新総合事業でまちづくり」をテーマにシンポジウムを開催しました。自治体調査は新総合事業に関する予算を中心に都内23区と26市に調査協力を依頼し、1区を除く全自治体から回答が得られる見通しです。市民に向けた調査は、調査対象を40歳以上の市民として連携する運動グループに調査協力をお願いをして、現在200名ほどから回答を寄せられています。5月には報告書にまとめ、次の調査につなげていきます。

第15回総会を下記日程で開催します。皆様のご参加をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社 第15回総会

日時：2016年3月18日（金） 18：00～19：30

場所：ASKビル6階 市民シンクタンクひと・まち社

編集後記：「呆れ果てても、諦めない。」福島原発事故から五年、復興は遅れ原発事故も未収束のまま、再稼働する大きな力に対し、いわき市出身の講談師、神田香織さんが言い当てた言葉です。私たちがつながりあうことが大きな力になると信じ、あきらめないことが大切だと感じました。(K)